

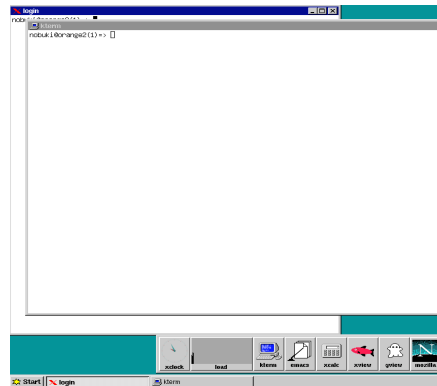
実習は X 端末または Mac を用いて unix マシン orange2 に login しておこなう。orange2 への login, logout の方法は, "X 端末" と "Mac" で異なる。

X 端末の場合

下のような画面が見えたら これは X 端末である



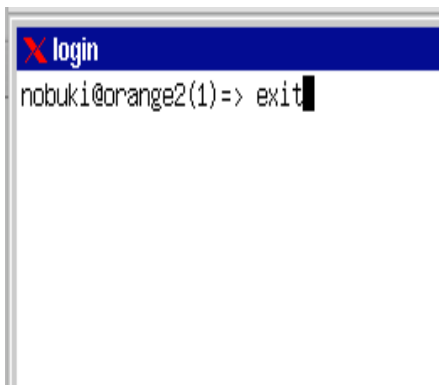
login名とパスワードを入力すると次のような画面になる。
注: パスワードを入力しても * とか ● のエコーはない。



二つ見えてる window が kterm の window で, これを "unix シェル" とよぶこともある。

実習ではメニューを使わず, kterm へのコマンドの入力のみで計算機を操作する!

logout するには "login" と表示のある unix シェルに, **exit** と入力して enter キー (return キー) を押す。



Mac の場合

1. Mac にログインする

1. "その他のユーザ" をクリック
2. "名前" に login 名. "パスワード" に パスワードを入力。

2. 一番下のアプリケーションドックに次のようなアイコン(X11のアイコン)があるはずなので, これを click して Mac の xterm の window を起動する。



(ないときには, Finderメニューの `ファイル` から `新規Finderウィンドウ`を開き, アプリケーションフォルダのユーティリティフォルダにこの X のアイコン(X11)があるので, それをダブルクリック.)

3. xterm の window に下のように入力すると orange2 にログインできる. yes/no を聞かれたら yes を入力. もう一度パスワードを入力する必要あり. nobuki の部分は自分の ログイン名を入れる.

```
bash-3.2$ ssh -Y nobuki@orange2
```

```
ssh -Y orange2
```

または

```
ssh -Y 自分のlogin名@orange2
```

4. orange2 の kterm の window を2つ開く

```
You have a mail.
nobuki@orange2(1)=> kterm -km euc &
```

```
kterm -km euc &
kterm -km euc &
```

上の入力が面倒なときは, `2kterm` と入力すると kterm の window が2つ開く (これは orange2 でしか使えないコマンド).

みかけは少々異なるが, これで X 端末の場合とほぼ同様な環境となる.

kterm の画面に `exit` を入力すれば, orange2 を logout できる.

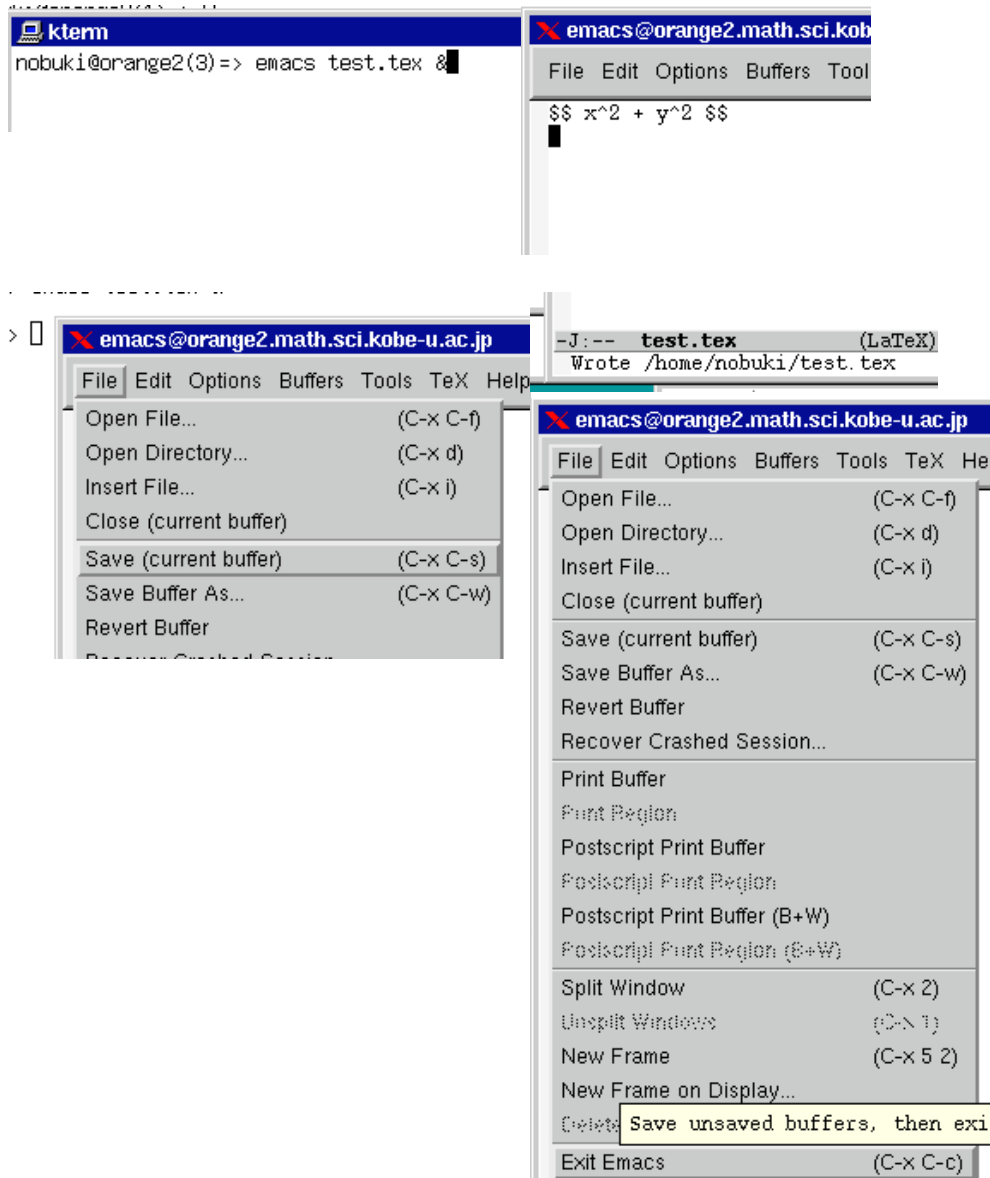
注意

orange2 は サーバ室内にある計算機である. X 端末や ssh コマンドは, 離れた場所にあるコンピュータをインターネットを介して利用する方法である. たとえば ssh コマンドを使えば, アメリカから, 数学教室にある orange2 を利用することも可能である. (よって, usb に flash メモリをさしても, orange2 のデータをコピーできる訳ではない. 理由は講義で説明.)

以下は X 端末でも Mac でも同様なので, X 端末の画面で説明する

実習ではメニューを使わず, unix シェルへのコマンドの入力のみで計算機を操作する. GUI (Graphical User Interface) を使わないで計算機を操作する(ファイルのコピー等も含む)ことを覚えることは, 計算機を歴史的背景も含めきちんと理解するには必須である. はじめは少々不便を感じるがマスターすれば GUI より強力で便利な場合も多い. 参考書は講義で述べる.

emacs での tex の入力



なお emacs がわけのわからない画面になったら, ctrl-g をおす (ctrl キーを押しながら g を押す).

unix シェルでの tex のコンパイル

```
nobuki@orange2(6)=> platex test
```

xdvi での preview

```
ls -l
```

で, test.dvi ができていることを確かめる.

```
xdvi test &
```

で preview すると下図のような画面になる.

注意:

&
をつけないと, xdvi の quit ボタンを押すまで unix shell には戻らない.

```
bash-2.05b$ platex test
This is pTeX, Version p2.1.11, based on TeX, Version 3.14159 (EUC) (Web2C 7.3.1)
(test.tex
pLaTeX2e <2000/11/03>+0 (based on LaTeX2e <1999/12/01> patch level 1)
(/usr/local/share/texmf/ptex/platex/base/jarticle.cls
Document Class: jarticle 1999/05/18 v1.1q Standard pLaTeX class
(/usr/local/share/texmf/ptex/platex/base/jsize10.clo)) (test.aux) [1] (test.aux
) )
Output written on test.dvi (1 page, 336 bytes).
Transcript written on test.log.
bash-2.05b$ ls -l
total 10
-rw-r--r--  1 taka  user1    8  4  9  08:23 test.aux
-rw-r--r--  1 taka  user1   336  4  9  08:23 test.dvi
-rw-r--r--  1 taka  user1  2654  4  9  08:23 test.log
-rw-r--r--  1 taka  user1    72  4  9  08:21 test.tex
bash-2.05b$ xdvi test
```

```
img src="x5.png" align="le
img src="x7.png" />
r><br>
img src="x6.png" align="le
img src="x9.png" /> <br>
img src="x8.png" /> <br>
```

